

高等学校・全学年 特別活動（学校行事等）

交通

1 題材名 「交通安全リーダーの育成を目指して」

2 目標

Ⅱ-4 交通事故防止と安全な生活

地域の交通安全に関する諸機関や団体が行っている対策や活動を理解し、安全な交通社会を築くために、積極的に参加できるようにする。

3 生徒の実態

交通安全についての課題として、自転車の事故をゼロにすることや交通ルールの遵守、交通マナー改善等が挙げられる。登校時の自転車による事故は、今年度10件発生した。ルールやマナーに関しては、車道に広がって歩く姿や、自転車の並進通行、携帯電話使用運転、イヤホン等使用運転、傘差し運転等のルール違反等が見られ、近隣からの通報もある。

生徒を対象として実施したアンケートでは、自分がルール違反をしていることは認識しながらも、「みんなもやってるから、自分は悪くない。」、「自分なりに注意しているから、事故には遭わないだろう。」等と考えている生徒が多いことが分かった。

これらの課題を踏まえ、ルール遵守やマナー向上の大切さを理解させるとともに、生徒が自主的に交通安全について考え、実践する機会を設定することが必要である。

4 本題材と「日常的な安全指導」「定期的な安全指導」「特設する安全学習」との関連

「日常的な安全指導」として、毎朝の登校時駐輪指導をはじめ、全校、学年集会及びホームルーム時の生活指導を通年で実施している。

「定期的な安全指導」として、警察署と連携したセーフティ教室を行い、交通安全を含む安全教育の講話を実施している。また、今年度から生徒有志（生徒会役員、風紀委員、部活動有志）による交通安全実行委員会を組織し、通学路の安全に向けた活動を実施している。

「特設する安全学習」として、保健体育の授業において応急手当の学習や自転車の安全運転学習を実施した。さらに、本時では、スタントマンによる衝突実演を見学することで、生徒一人一人の交通安全意識の向上を図っていく。

5 目標に迫るための指導方法の工夫

(1) 交通安全教室との関連における工夫

交通安全教室において、次のような活動を取り入れ、生徒に交通ルール違反の危険性や安全な自転車運転の仕方について体感的に理解させるとともに、危険を予測し回避する能力を高めさせる。

- 警視庁から配布されたリーフレット「自転車の正しい乗り方」を活用した交通ルールに関する指導
- 「危険予測トレーニング」及び「自転車の安全な乗り方と交通ルールに関するテスト」
- 自転車シミュレータを活用した体験学習

(2) 保健体育の学習との関連の工夫

保健体育の授業において、自転車8の字走行体験を実施した。校庭に、直径10mの円を2つ描いて8の字コースを作成し、20人が全員足をつかずに走行できるまで行う。8の字の交差する場面で、生徒が、思いやりをもって譲り合うことの大切さに気付くことができるようにした。

(3) 生徒による自主的な交通安全活動の重視

有志の生徒による交通安全実行委員会を組織し、主体的な交通安全活動を行わせる。

登校時、交通安全実行委員会の委員が、最寄り駅から学校までの通学路に、交通ルール遵守を促すプラカードを持って立ち、交通ルールチェック（信号の遵守、一時停止、歩道の歩行、歩き方のマナー等）を行い、全校生徒の交通安全に対する意識の向上を促した。

(4) 交通安全教室の事前指導及び事後指導の充実

交通安全教室の事前指導として、交通安全チェックを行い、生徒各自で自身の交通安全意識を確認できるようにした。また、事後指導として、振り返りを行い、日常生活における交通安全上の課題、課題解決に向けた方策について考えさせる時間を設定した。

(5) 地域との連携

近隣小学校、近隣町内会を招き、地域と一体となって交通安全教室を実施することで、地域と連携した交通安全の在り方について考える機会をもつ。



6 指導計画（4時間扱い）

	主な学習活動	安全教育の視点に立った留意点
1	<p>○ねらい：自転車安全利用五則等、交通ルールを確認し、事故防止のための理解を深める。</p> <p>○実施方法：自転車シミュレータを活用した交通安全教室を行う。あわせて危険予測トレーニング、自転車の安全な乗り方と交通ルールに関するテストを実施する。</p>	<p>歩行者としての交通安全 【Ⅱ－1－①②③④⑥】</p> <p>自転車利用者としての交通安全 【Ⅱ－2－①②③⑤⑥】</p>
2	<p>○ねらい：通学時等、日常生活における自身の自転車の乗車及び歩行の仕方を振り返るとともに、自他の安全のためには、思いやりをもって譲り合うことが大切であることを体感的に理解する。</p> <p>○実施方法：交通安全チェック、自転車安全運転体験学習（8の字走行体験）を行う。</p> 	<p>自転車利用者としての交通安全 【Ⅱ－2－①②③】</p> 
3・4 (本時)	<p>○ねらい：スタントマンによる交通事故の再現を通して、実感を伴った危機意識をもたせ、交通安全に関する意識を改善し、今後の日常生活に生かす。</p> <p>○実施方法：スケアード・ストレイト方式による衝突実演を見学する。</p>	<p>歩行者としての交通安全 【Ⅱ－1－①②③④⑥】</p> <p>自転車利用者としての交通安全 【Ⅱ－2－①②③】</p> <p>二輪車、自転車の特性と心得 【Ⅱ－3－①③】</p> <p>交通事故防止と安全な生活 【Ⅱ－4－①④】</p>

7 本時の展開（第3・4時／4時間）

(1) ねらい

- 交通安全実行委員会による活動報告を確認することを通して、自身の通学における課題を理解し、自らの命と安全（自助）や仲間及び地域住民の方々の命と安全（共助）について考え、交通安全に対する意識の改善を図る。
- スケアード・ストレイト方式の実演を見学することで、交通事故の怖さや自動車の特性を知り、危険を予測し回避する方法について考える。

(2) 指導の実際

	○主な学習活動	◎支援・留意点 ■評価（評価方法）
導入	<p>【第3時】</p> <p>○本時のねらいと学習内容を理解する。</p>	<p>◎通学時を含む日常生活の歩行や自転車の乗り方、交通事故の状況を説明し、今回の交通安全教室の目的や意義を理解させる。また、生徒が、自身の課題に気付くことができるようにする。</p>

展 開	<p>○交通安全実行委員会による活動報告を聞き、通学時における自身の課題、その対策を考える。</p>  <p>○自転車安全利用五則を確認する。</p> <p>【第4時】</p> <p>○スタントマンによる衝突実演を見学する。</p> <p>①時速40kmの衝突事故再現 ②違反自転車での衝突事故の再現 ③見通しの悪い交差点での飛び出し事故</p>  <p>④大型車との内輪差での巻き込み事故 ⑤傘差し自転車運転による接触事故 ⑥大型車の死角での横断歩道上の事故 ⑦自転車通行可の歩道における自転車の衝突事故</p> 	<p>◎主体的な交通安全活動を重視し、交通安全実行委員が本校の通学状況について説明する機会を設定する。また、交通安全教室の司会を生徒に行わせる。</p> <p>◎事故経験者からの事故報告を行う。(代読)</p> <p>◎自転車安全利用五則に照らし合わせて、自身の通学状況を振り返るよう、助言する。</p> <p>○本交通安全教室に、地域の小学校や町内会に参加を依頼する。地域の方々とともに交通安全について考える機会を設定することにより、生徒が地域の交通安全に目を向けられるようにする。</p>  <p>○それぞれの場面において、指導者が、解説や発問を行い、それぞれの事故の原因や影響を考えさせる。</p> <p>○自分の問題として考えるように助言する。</p> <p>○自転車の危険な乗り方は自分だけでなく、他人を巻き込んでしまうことを自覚させる。</p>
ま と め	<p>○本時を通して気付いたことや自分の気持ちの変化、改善点について、ワークシートにまとめる。 (各ホームルーム教室にて)</p>	<p>■交通規則遵守の重要性を理解し、自分自身の歩行及び自転車運転における改善点を明確にワークシートに書いている。 (ワークシート)</p>

(3) 評価

- ・ 交通ルール遵守の重要性を理解することができたか。
- ・ 自分の自転車乗車・歩行時における具体的な問題点に気づき、改善しようとする意識が高まったか。
- ・ 地域の交通安全のために自分ができることを考えることができたか。